

ウラジオストク滞在に関する報告について（8月分）

1. パルチザンスク市・ナホトカ市について

富山県と友好提携を結ぶ沿海地方ですが、ウラジオストク以外にも魅力ある街があります。そのうちの1つが今回訪れたパルチザンスク市です。同市はウラジオストクから東へ約150km進んだところにある人口約3万6千人の街であり、同市からの40kmの位置にある、日本人には馴染み深いナホトカ市にも訪問しました。



当日は、同行していただいた在ウラジオストク日本国総領事館職員の繋がりでも、パルチザンスク市長顧問のグリュズノフ氏に案内していただき、日帰りの短い時間でしたが、同市の魅力、特に美しい手つかずの自然を味わうことができました。



(写真1 車窓から見る雄大な自然)



(写真2 美しい海と草原)



(写真3 振舞っていただいた採れたてのウニ)



(写真4 道路の両側で工事をしている日本では中々ない光景)

旅の最後にはパルチザンスク市長とも少しお会いできました。その際に撮影した写真は、8月26日に在ウラジオストク日本国総領事館公式Instagramに投稿されたパルチザンスク市開基125周年を祝う投稿（[在ウラジオストク日本国総領事館 \(@jpncons_vladivostok\) ・ Фото и видео в Instagram](#)）にも掲載されております。ぜひご覧ください。

2. ロシア語自習会について

8月のウラジオストク国立経済サービス大学（ブグエス）は夏季休暇期間であり、ロシア語を勉強する機会が減少するため、積極的に外部の勉強会等に参加しました。

そのうちの1つであるロシア語自習会は、ルースキー島にある極東連邦大学の日本語学科の講師が主催しており、現地の日本人駐在員等が、同大学の学生を中心とする日本語学習者と交流し、日頃ロシア語を使用する上で生じる疑問を解消していくものであり、隔週で開催されています。

8月は主催者が一時帰国のため不在であり、一時的に幹事役を代行しました。その結果、自身の語学力の強化はもとより、現地の日本人コミュニティ及び日本語学習者との関係を深めることができました。

3. 森本庭園開園記念日について

8月31日（火）はブグエスの敷地内にある森本庭園の開園記念日（20周年）になります。公式式典は来年に延期されましたが、富山ウラジオストク友の会世話人のヤンファ・ウラジーミル氏が発起人となり、今後設置予定の看板を作るイベントを行いました。同氏には、この日に限らず、熱心に庭園の管理をいただいております。



(写真5 幹事が庭園を手入れする様子)

4. ウラジオストク市内の状況について

- ・治安状況

今月、当地で日本人が犯罪に巻き込まれたという情報はありません。

(参考) 沿海地方の新型コロナウイルス感染状況 (9月9日)

累計感染者数 64,340人 累計死者数 1,077人

1日の感染者数 223人 1日の死者数 4人

- ・気候

8月のウラジオストクも7月と同様に多くの日で猛烈な暑さに見舞われました。